

1. 郷育（さといく）のススメ

郷育（さといく）とは、ふるさとを表す、「故郷（こきょう）」の“郷（ごう）”という文字と、はぐくむの“育（いく）”を合わせた造語です。他の市町村では、同じ漢字を書いて「きょういく」とか「ごういく」と読ませて使用している事例もありますが、あえて異なった読み方にしたのは、その趣旨が異なるからです。

平成13年に制定された北上市教育振興基本計画の中に「郷土を愛し、地域に誇りを持つ心をはぐくむとともに、先人が培ってきた優れた伝統や文化の維持・継承に努め、これを次世代に受け継いでいくことが重要」とあります。これに「地域との関わりや活動への積極的な参加を推進していく」という事を付け加えて、地域教育の総括概念として「郷育（さといく）」という言葉、提案したいと思います。

教育の基本として古くから「知育・徳育・体育」の三育が言われており、近年ではこれに食育を加えて、4育となっております。そして5番目として「郷育（さといく）」を位置づけて考えてみます。

以前から、「地域で子どもを育てる」という事が言われてきております。しかし、地域の方々が自分の地域の子ども達を知らないという場合も多々あるようです。数年前に、ある自治公民館長と話をさせて頂いたときに、その公民館長は地区の小学生の顔が判らないので、公民館に顔写真と名前を張り出しても良いかなと、冗談まじりにおっしゃっておいりました。公民館長ですら、地域の子どもの良く分からなくなっている背景には、子ども達が地域の行事に参加しなくなっているからではないでしょうか。

そして今、ゆとり教育への反省から、また学力向上の方向に転換しつつあります。しかし、「学力がついて、レベルの高い高校や大学等へ進学してしまうと、その後、地元に戻ってこなくなるから、あまり学力をつけさせないで欲しい」という話もごく一部では聞かれる事もあります。これは、市内や県内での就職先が、どのようなところがあるかという問題にもなりますが、根本にあるのは、郷土に対する愛着や、育ってきた地域との係わりがどの程度であったかという事があると思います。そして、地元を離れて、他の地域で働いたり学んだりする環境にあっても、北上市で育った事が誇りに思えるような教育が必要だと思えます。

これらを踏まえた上で、「郷育（さといく）」の基本方針として、次の3点が考えられます。

一つは、子ども達が地域と関わる機会を増やし、地域の一員としての自覚を持つこと。

二つ目は、地域内での子ども達同士の連帯を幅広い世代で深めていくことで心豊かに育つこと。

三つ目は、自分達の町を知り、地域の伝統や文化を学び、郷土愛を育むこと。

そして、更には、これらを子ども達だけでなく、大人も含めて実施していく事が大切だと思います。

そこで、この「郷育（さといく）」について4点質問します。

まず1点目は、子ども達の地域行事への参加です。北上市内16地区では、交流センターを中心に様々な行事が行われていますし、自治公民館や老人クラブなどでも様々な活動を行っていると思います。その行事や活動へ、子ども達が積極的に参加していくように、学校側から指導したり、場合によっては地域へ働きかけていく事も重要だと思います。地域行事に子ども達が参加していく事により、大人たちも、自分の地域にどんな子どもが居るかが分かってきて、それが地域で子どもを育て見守るという動きに繋がるのだと思います。そこで、小学生または中学生が地域行事に対して、参加または運営補助員などとして関わっている事例はどのようなものがありますでしょうか？そして、今後、地域側からか、あるいは学校側からの働きかけにより、課外活動や休日等も含めて、子ども達が地域行事へ参加していくような環境づくりを推進していく考えはありませんでしょうか？これらは、基本的に各家庭の判断によるものと思われまますので、保護者への意識啓発も必要かと思えます。家庭への働きかけとしての対応策についての考えを伺います。

2点目は、子ども達の町内会とも言うべき「子ども会」活動の充実についてです。市内の子ども会は、ほとんどが小学生のみで構成されておりますが、「社団法人 全国子ども会連合会」に加盟している子ども会の活動をみると、ほとんどが小学生から高校生までもを対象としています。子どもの中でも幅広い年齢層が参加し、特に中学生、高校生がリーダーとなって活動する事で、その地域の中での仲間意識も高まり、地域行事への参加もしやすくなると思います。市内での子ども会においても、今

後は、小中学生が一緒になった活動を推進していくべきであり、学校及び社会教育面からのアプローチが必要と考えますが、見解を伺います。

3点目は、地域についての教育についてです。小学校3年生の社会科では、「わたしたちの町」という学習があり、市内の施設見学等を行ったりしております。この、自分達の町を知る事は「郷育（さといく）」という観点からは最も重要だと思います。そこで、小学校3年生の学習においてどの様な教材を使用し、どの様な指導をされているか伺います。そして今後は、小学校の高学年、あるいは中学校において、住んでいる地域についての学習をする機会を設けて、地域教育を充実していく考えはありませんでしょうか？

4点目は、郷土芸能学習についてです。北上市は、「みちのく芸能まつり」が行われているように、各地区で継承されている伝統芸能が沢山残っている街でもあります。小中学生に対して、郷土に対する理解を深める意味でも、これらの郷土芸能を学習し、体験させる事も重要だと思います。市内全ての小中学生が、何らかの郷土芸能を体験し、学校や地域の運動会や文化祭などで発表できるレベルまで習得できれば、その芸能への理解が深まり、地域への愛着も強くなると思います。既に取組んでいる事例も沢山あるようですので、現状での取り組み事例をお知らせ下さい。また、今後は学校教育及び社会教育の上で、郷土芸能をどのような位置づけとして捉えていくか、見解を伺います。

以上、「郷育（さといく）」に関して4点伺います。